

# 衛 生 学

## 1 構 成 員

	平成 14 年 3 月 31 日現在
教授	1 人
助教授	1 人
講師（うち病院籍）	0 人（人）
助手（うち病院籍）	2 人（人）
医員	0 人
研修医	0 人
特別研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人（人）
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技官（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	1 人
合 計	5 人

## 2 教官の異動状況

- 青木 伸雄（教授）（H元.11.1 現職）  
 杉本 弘司（助教授）（H10.3.1 現職）  
 鈴木（中村）美詠子（助手）（H3.4.1 現職）  
 久保 伸朗（助手）（H10.5.1 現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 13 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	3 編（1 編）
そのインパクトファクターの合計	1.89
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0 編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3 編（3 編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編（編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編（編）
そのインパクトファクターの合計	0
(6) 国際学会発表数	7 編

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nakamura M, Whitlock G, Aoki N, Nakashima T, Hoshino T, Yokoyama T, Morioka S, Kawamura T, Tanaka H, Hashimoto T and Ohno Y (2001) Japanese and Western diet and risk of idiopathic sudden deafness: a case-control study using pooled controls. International Journal of Epidemiology 30 : 608-615
2. Nakamura M, Aoki N, Nakashima T, Hoshino T, Yokoyama T, Morioka S, Kawamura T, Tanaka H, Hashimoto T, Ohno Y and Whitlock G (2001) Smoking, alcohol, sleep and risk of idiopathic sudden deafness: a case-control study using pooled controls. Journal of Epidemiology 11 : 81-86
3. 中村美詠子, 久保伸朗, 青木伸雄 (2002) 日本食における低ナトリウム醤油・味噌による減塩：二重盲検無作為化比較クロスオーバー研究. 日本循環器病予防学会誌 37(1) 12-18.  
インパクトファクターの小計 [1.89]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

## (2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

## (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 青木伸雄, 中村美詠子 (2002) 循環器疾患における QOL の向上. ハートナーシング 15(1) : 58-67.
2. 中村美詠子, 青木伸雄, 中島務, 星野知之 (2002) ケース・クロスオーバー・デザインを取り入れた突発性難聴に関する症例対照研究. 厚生科学研究特定疾患対策研究事業 特定疾患の疫学に関する研究班 平成 13 年度研究業績集 86-88.
3. 中村美詠子, 多島早奈英, 武見ゆかり, 吉池信男 (2002) 都道府県栄養調査等に関する各種手法の検討及び地域における栄養・食生活データの活用. 厚生科学研究健康科学総合研究事業「健康日本 21」における栄養・食生活プログラムの評価手法に関する研究 平成 13 年度研究業績集

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共

同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### (5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### (6) 国際学会発表

1. Nakamura M, Aoki N, Shiraki M, Oishi K, Kameyama Y (2001) Structural pattern of Japanese daily meal. 17<sup>th</sup> International Congress of Nutrition, August, Vienna.
2. Matsutani Y, Kimura A, Kagaya M, Horibe H, Aoki N, Nakamura M, Kubo N (2001) The relation of serum leptin concentration with nutrition and physical activity in a Japanese rural population. 17<sup>th</sup> International Congress of Nutrition, August, Vienna.
3. Fukino Y, Aoki N (2001) A study on health and green tea intake in a district, Japan. 17<sup>th</sup> International Congress of Nutrition, August, Vienna.
4. Fukino Y, Aoki N, Takeshita T, Tojo Y and Okubo T (2001) Study on the effects of green tea intake on blood glucose in Shizuoka, Japan. International Conference on O-CHA[tea] Culture and Science, October, Shizuoka.
5. Laws C, Wood M, Ueshima H, Pan WH, Bennett D, Rodgers A for the Asia Pacific Cohort Studies Collaboration (2001) Blood pressure and cardiovascular disease in Asia Pacific Populations. 5<sup>th</sup> International Conference on Preventive Cardiology, May, Osaka.
6. Barzi F, Horibe H, Gu DF, Zhang XH, Woodward M for the Asia Pacific Cohort Studies Collaboration (2001) Diabetes and stroke in the Asia Pacific Region. 5<sup>th</sup> International Conference on Preventive Cardiology, May, Osaka.
7. Zhang XH, Pan WH, Ueshima H, Neal B, Woodward M for the Asia Pacific Cohort Studies

Collaboration (2001) Diabetes and coronary heart disease in Asia Pacific Populations. 5<sup>th</sup> International Conference on Preventive Cardiology, May, Osaka.

#### 4 特許等の出願状況

	平成 13 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成 13 年度
(1) 文部科学省科学研究費	1 件 (200 万円)
(2) 厚生科学研究費	2 件 (450 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 ( 万円)
(4) 財団助成金	0 件 ( 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 ( 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	2 件 ( 88 万円)

##### (1) 文部科学省科学研究費

中村美詠子（代表者）基盤研究（C）(2)「食塩摂取量及び血圧に対する低 Na 調味料の二重盲検無作為化試験」 200 万円（継続）

##### (2) 厚生科学研究費

青木伸雄（分担者）特定疾患対策研究事業 特定疾患の疫学に関する研究班「突発性難聴の発症要因に関する疫学的研究」50 万円（継続）代表者 順天堂大学医学部教授 稲葉裕

中村美詠子（分担者）健康科学総合研究事業「健康日本 21」における栄養・食生活プログラムの評価手法に関する研究 400 万円（新規）代表者 独立行政法人国立健康・栄養研究所理事長 田中平三

#### 6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

#### 7 学会活動

	平成 13 年度
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件
(2) 国際・国内シンポジウム発表数	0 件
(3) 学会座長回数	1 件
(4) 学会開催回数	0 件
(5) 学会役員等回数	7 件

##### (3) 座長をした学会名

青木伸雄 第 60 回日本公衆衛生学会総会

(5) 役職についている学会名とその役割

- 青木伸雄 日本循環器管理研究協議会理事  
青木伸雄 東海公衆衛生学会理事  
青木伸雄 日本栄養改善学会評議員，査読委員  
青木伸雄 日本公衆衛生学会評議員，査読委員  
青木伸雄 日本疫学会評議員  
青木伸雄 日本衛生学会評議員  
中村美詠子 日本循環器管理研究協議会評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	平成 13 年度
学術雑誌編集数	1 件

中村美詠子 Journal of Epidemiology, Editorial Board

## 9 共同研究の実施状況

	平成 13 年度
(1) 国際共同研究	1 件
(2) 国内共同研究	5 件
(3) 学内共同研究	1 件

(1) 国際共同研究

Asia Pacific Cohort Studies Collaboration (シドニー大学他) アジア太平洋地域におけるコホート共同研究

(2) 国内共同研究

中島 務 (名古屋大学耳鼻咽喉科学) 玉腰暁子 (名古屋大学予防医学) 星野知之 (本学耳鼻咽喉科学) 等 突発性難聴，ムンプス難聴に関する全国疫学調査

吹野洋子 (静岡県立大学食品栄養科学部) 緑茶飲用の健康への効用に関する疫学共同研究

那須恵子 (静岡県立大学短期大学) 赤血球変形能に関する疫学的研究

白木まさ子，大石邦枝 (静岡県立大学食品栄養科学部) 静岡県の栄養・食生活に関する共同研究

吉池信男 (独立行政法人国立健康栄養研究所) 等 都道府県栄養調査等に関する各種手法の検討及び地域における栄養・食生活データの活用に関する研究

(3) 学内共同研究

星野知之 (耳鼻咽喉科学) 等 突発性難聴に関する症例対照研究

## 10 産学共同研究

	平成 13 年度
産学共同研究	0 件

## 11 受賞（学会賞等）

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. アジア太平洋地域におけるコホート共同研究

本プロジェクトは、アジア太平洋地域における循環器疾患と中心とした主要疾患、及び事故とそのリスクファクターとの関連の大きさを明らかにするため計画された国際共同研究である。平成13年度には循環器疾患と血圧、及び糖尿病との関連について結果がまとめられた（(6) 国際学会発表 5, 6, 7）。循環器疾患のリスクは収縮期血圧が少なくとも 115mmHg のレベルまで低下し、10mmHg の収縮期血圧の低下により脳卒中のリスクが60歳未満では55%、60～69歳では44%、70歳以上では28%低下すること、虚血性心疾患のリスクがそれぞれ45%、30%、18%低下すること、また血圧対策による潜在的利益はオーストラリア・ニュージーランドに比べアジアでより大きい等が明らかにされた。

（中村美詠子，青木伸雄）

### 2. 突発性難聴に関する疫学研究

突発性難聴に関する記述疫学研究、及び多施設共同症例対照研究である。プールドコントロールを用いた症例対照研究においては、西洋型の食事と多量飲酒が突発性難聴のリスクを高め、日本型の食事とそのリスクを下げる事が報告された（(1) 原著論文 A. 1, 2）。いわゆる「難病」として位置付けられている本疾患と生活習慣との関連が明らかにされ、本疾患の予防（生活習慣改善による発症率低下等）の可能性が示唆された。本疾患に関する疫学研究は世界的にもほとんど実施されておらず、さらなる疫学的知見の集積が期待されている。現在、静岡県内5病院の耳鼻咽喉科と共同で、ケースクロスオーバーデザインを取り入れた新しい症例対照研究、及び全国の病院耳鼻咽喉科の協力を得て、我が国における突発性難聴の2001年における受療状況等を明らかにするための全国疫学調査が進行中である。

（中村美詠子，青木伸雄，星野知之他）

### 3. コミュニティ栄養学研究

疫学的手法等を用いて、栄養・食生活と健康との関連を明らかにし、コミュニティに対する効果的なアプローチ法を検討し、コミュニティの疾病予防・健康増進に貢献することを目的とした研究である。

(1) 緑茶飲用の健康への効用に関する研究：一定量の緑茶粉末飲用による血糖低下作用等に関するプレリミナリーな結果が示された（(6) 国際学会発表 4）。

（青木伸雄）

(2) 低ナトリウム調味料を用いた減塩に関する研究：低ナトリウム調味料の使用は味覚を損なうことなくある程度の減塩が可能であることが示された（(1) 原著論文 A. 3）。

（中村美詠子，青木伸雄，久保伸朗）

(3) 地域における栄養・食生活の評価等に関する研究：地域における栄養・食生活調査の実態を明らかにし、国民栄養調査データを地域で活用するための基礎的検討を行った（投稿中）。

(中村美詠子)

### 13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

### 14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. アジア太平洋地域におけるコホート共同研究（APCSC：Asia Pacific Cohort Studies Collaboration）は，アジア太平洋地域（オーストラリア，ニュージーランド，日本，中国，韓国，台湾，シンガポール）における大規模国際共同研究である。従来，循環器疾患のリスクファクター等に関する大規模疫学研究は欧米を中心にすすめられてきており，遺伝環境要因の異なるアジア太平洋地域におけるエビデンスは限られていた。本研究は東アジアにおける脳卒中と虚血性心疾患に関する共同研究（ESCHDCP：Eastern Stroke and Coronary Heart Disease Collaborative Project）を発展，継続させたものであり，その研究成果はアジア太平洋地域における疾病負荷を予測する基礎データとして，WHO 等にも提供される予定である（Global burden of disease collaboration）。

### 15 新聞，雑誌等による報道